

<フィリピン>台風 22 号海外災害支援

皆さまの心あたたまるご支援を
フィリピン・ネグロス州の人々
お届けしました！

台風 22 号被害の概要

2021 年 12 月 16 日から 17 日にかけてフィリピン中部を直撃した台風 22 号は、同国中南部を中心に甚大な被害をもたらし、405 人が亡くなりました（2021 年 12 月 31 日、フィリピン災害対策局発表）。オイスカの活動地でも、ネグロス島にあるバゴ研修センター（以下、センター）の敷地内で大木が倒れて建物が損壊するなど、深刻な被害を受けました。センターは農業研修のほか、技能実習をはじめとする、さまざまな制度で訪日を予定している青年たちの事前研修の場としての役割も持ちます。今回の被害を受け、一時的に研修の中断を余儀なくされました。また、センターを拠点に展開する養蚕普及事業に関して、製糸過程で欠かせないボイラーがある建物に深刻な被害が出たほか、島内で繭を生産する農家でも、養蚕のための施設が全壊したケースもあり、大きな影響を受けました。

オイスカでは、12 月から 1 月にかけて実施した冬募金の支援項目に「海外災害支援」を加え、12 月 21 日よりネグロスの被災地支援の呼びかけを開始。これまで現地を訪れたことのある全国の会員や支援者の皆さまをはじめ、連日報道される被害の大きさに心を痛めた方々から約 660 万円の寄附が届きました。その内、8 割をセンター支援、2 割を養蚕農家支援に充てました。また、3 月には JICA・フィリピン事務所より約 350 万円の資機材支援を頂き、100%養蚕農家支援としました。心から感謝いたします。



養蚕農家の蚕室の様子（12月20日）



損壊したセンター（ダイニングを含む建物）の様子
（12月23日）

養蚕農家への資機材支援

＜蚕室の新築・修理対象農家＞

合計 43 農家（マビナイ地域 12 軒、サンカルロス地域 15 軒、カラトラバ地域 16 軒）内、30 軒は JICA・フィリピン事務所より資機材の支援

ネグロス島内の養蚕農家は、地域別にそれぞれマビナイ地域 12 軒、サンカルロス地域 15 軒、カラトラバ地域 16 軒の養蚕農家が大きく被害を受けました。マビナイ地域は、特に被害も大きく蚕室（蚕が育つ建物）の立て直しが必要なため、建設計画を進めることから始まりました。一方、サンカルロス地域とカラトラバ地域は、新しい建設ではなく、既存の蚕室の修理を行いました。台風直後から養蚕普及員が各農家を巡回し、農家ごとに必要な資材を確認し、修理資材を届けました。

3月22日には、マニラにある JICA（独立行政法人国際協力機構）・フィリピン事務所より養蚕農家に対する資機材のご支援をいただき、30 戸以上の蚕室の新築と修理のための資材（砂、砂利、セメント、トタン板、木材等々）がバゴ研修センターに届きました。到着後、5月上旬までにかけて養蚕普及員による資機材の配達が完了しました。現在は、各農家での蚕室の再建が進んでいます。



養蚕農家と蚕室の様子（5月31日）

養蚕農家コメント

養蚕事業と並行して農業を行っているのですが、バナナ、とうもろこしや野菜などは台風によられ、収入に繋がりませんでした。しかし、桑の葉はすぐに回復し繭ができたので、とても嬉しいです！蚕室も完成しました！

センターの建物修復

<進捗状況>

修復完了：ボイラー施設、木造のゲストハウス、ショールーム、機織り所、研修生ダイニンググループ

現在修復中：ダイニンググループ、キッチン、宿舎など

センターの建物に大木が倒れ、いくつかの施設が損壊。建物などに倒れた大木約 60 本は、4 台のチェーンソーが稼働し、製材を行いました。再生された木材は、ベッドや机、イスなどの作製に役立てる予定です。

大木が屋根を直撃したボイラー建物は、養蚕事業の製糸過程に欠かせません。そのため、ボイラー建物の修理を優先的に行いました。まず損傷を受けた屋根を取り外し、新しい鉄筋を組みました。フィリピンの民族衣装であるバロンタガログ用の布を生産している、パナイ島アクラン州の織物業者など、フィリピン国内の生糸の需要に応えるため、2 月から再稼働。現在は、製糸を行い、生糸を生産できるようになりました。また、倒木が屋根部分に直撃した、木造のゲストハウスは、損傷部分を取り除き、屋根の張り替え、天井や部屋の内装の修繕に取り組みました。小教室の屋根の修理も行われ、3 月からは養蚕農家を対象とした養蚕研修や訪日予定の学生に対する日本語授業を実施しています。

一方、ダイニンググループ、キッチン、宿舎など被害の大きい施設は、シートを被せたままの状態が続いていましたが、5 月上旬から修復作業が始まりました。6 月末、完成予定です。6 月 1 日からは、ネグロス島内及びパナイ島アクラン州より、研修生が 18 名の研修が開始しました。研修生は、稲作を中心に蔬菜栽培について学んでいます。蔬菜栽培は、在来種だけでなく、日本の品種を含む様々な種類のものを栽培しており、近隣からも根強い支持を受けています。

以上のように、皆様のおかげで、通常のセンター業務に戻りつつあります。今後は、修繕した教室や宿泊施設を活用して、より積極的に養蚕農家を対象とした研修や、訪日予定の学生を中心とした日本語の授業などを行う予定です。



倒木を製材する様子（1 月 24 日）



屋根の損傷部分を取り除く様子（1 月 31 日）



天井と屋根の修理（3月1日）



ダイニングの建物を修理する様子（5月4日）

渡辺所長より

この度は、台風22号の被害に対し、大きなご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。バゴ研修センターのスタッフと共に、しっかりと養蚕事業の建て直しをする覚悟でおりますので、今後ともバゴ研修センター及びフィリピンでの活動をあたたかく見守り、応援していただければ幸いです。日本とフィリピンの行き来ができるようになりましたら、ぜひフィリピン・ネグロス島を訪問ください。スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。



渡辺所長（左）と養蚕農家（右）（1月5日）

あなたと共に歩みたい。 これまでも。これからも。

～ 思いをカタチに ～

オイスカの活動は、皆さまからの会費やご寄附によって支えられています。

どなたでもオイスカの活動に参加・ご協力いただけます。

私たちは、思いを同じくする方々の参加を常にお待ちしています。



公益財団法人オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17-5

TEL: : 03-3322-5161

URL : <https://oisca.org/>

2022年6月作成